

用料、或いは手数料として必要に応じて改定する。

コメント・・・「受益者が特定の個人に限定される」と答弁がありました。公共施設は地域コミュニティや市民の健康寿命の延伸にも貢献するものです。市は「市民協働」とよく言いますが、まさにそのことを実現するのが公共施設ではありませんか。公共施設についての認識が違うのではないのでしょうか。厚木市、平塚市は公民館を地域の皆さんの財産とし、使用料無料を継続し市民活動を支援しています。高山市政は国の言いなりに、公共施設の有料化を一昨年度提起し、昨年7月より有料化を実施しました。市民の活動・暮らしを守る立場とは言えないのではないのでしょうか。



歳入・歳出の差19億円の赤字示し 厳しさ強調は毎年の手法？

質問・・・予算編成表の歳入・歳出予測では19億円の赤字と表示し厳しさを強調しています。これは例年の手法「予算編成時は財政が厳しい」と言い、福祉・教育予算を低くする。決算時には、「うまくいっている」として、福祉・教育の遅れを正当化するものではありませんか。

回答・・・令和2年度の予算編成の見通しは、本年度の決算見込みや国・県の動向等を踏まえ、税担当や各所管部局の推計を基礎に見込んだもの。従って税収減や、幼児教育・保育無償化や国の制度変更に伴う負担増、また、少子高齢化社会の進展に伴う経費増など予算編成の環境は厳しい。

財政健全化と第5次総合計画を確実に推進する予算と言える。

コメント・・・毎年「予算編成時は財政が厳しい」



と言い、福祉・教育予算を低くする。そのため、伊勢原市の福祉・教育の施策は近隣市から比べれば遅れています。例えば小児医療費助成では、県内一般市のうち、伊勢原市を除くすべての市が中学3年生まで無料となっています。伊勢原市のみ小6まで。これは伊勢原市の教育予算が一人当たり県下一般市16市中14位と低く抑えられているからです。少なくとも中位程度に早急に引き上げるべきです。

市民のくらしの状況をどう認識？

質問・・・市民のくらしについてどう認識していますか。

消費税10%アップの影響についてどう見えていますか。

回答・・・現時点の令和2年度における税収見込みは、個人市民税は増の一方、法人市民税は減を見込むなど不透明感が継続しています。

消費税増税の影響は、さまざまな対策により、市民負担や経済の影響を最小限に抑えなければならぬ。厳しい環境にあっても、市民福祉の維持・向上をはかるとともに、市民生活の安全・安心を第一に将来の展望が持てるような予算編成を行なう。



初孫とともに、新年を迎える

一昨年の12月に生まれた孫は1歳になり、つたい歩きを始め、着実に成長した姿を見せてくれます。

今年の正月は我が家で過ごしましたが、始めは私の顔に驚いて泣いていましたが、あやすうちに笑顔を見せ、おじいちゃんはメロメロです。子ども達が健やかに成長するよう願った新年でした。

(宮脇俊彦)

